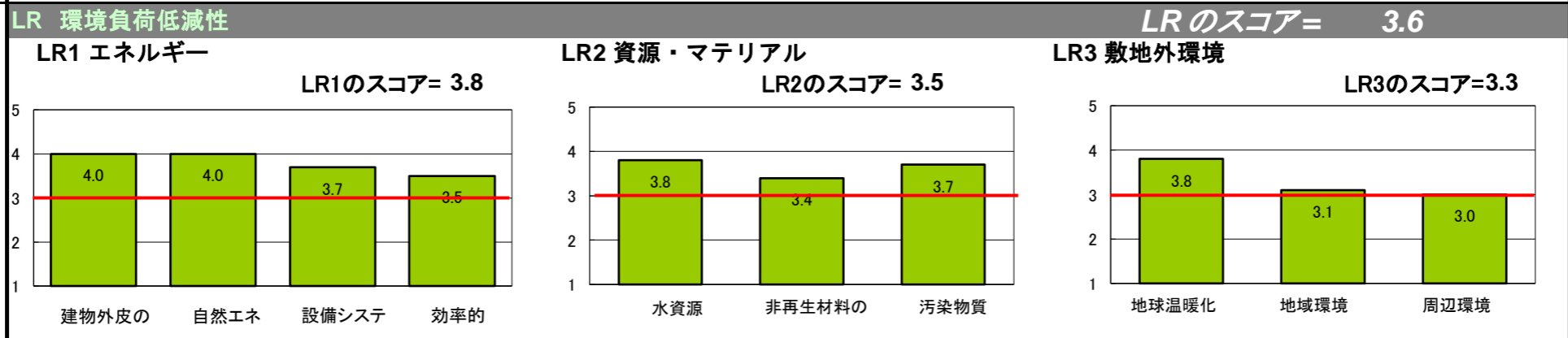
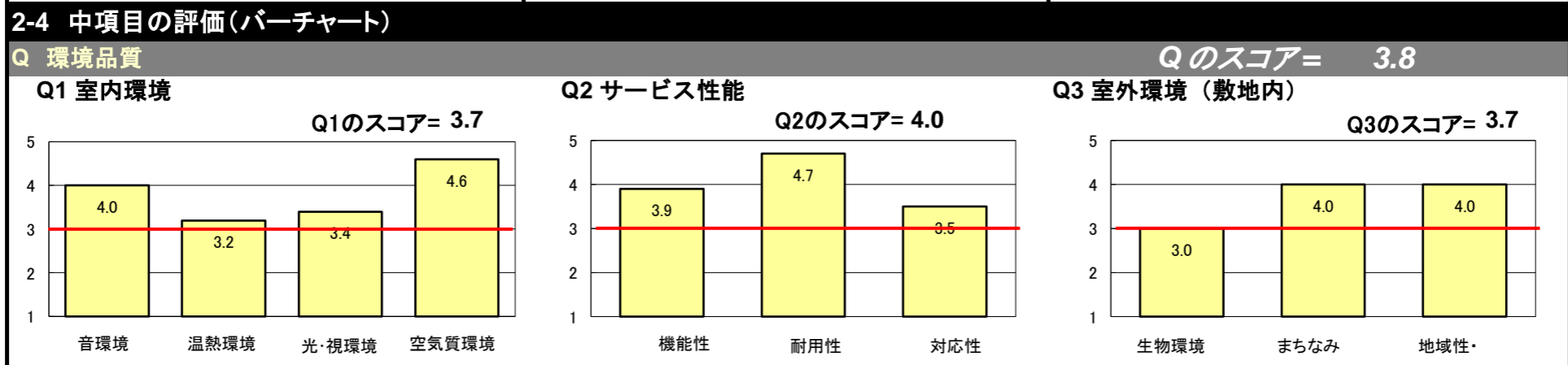
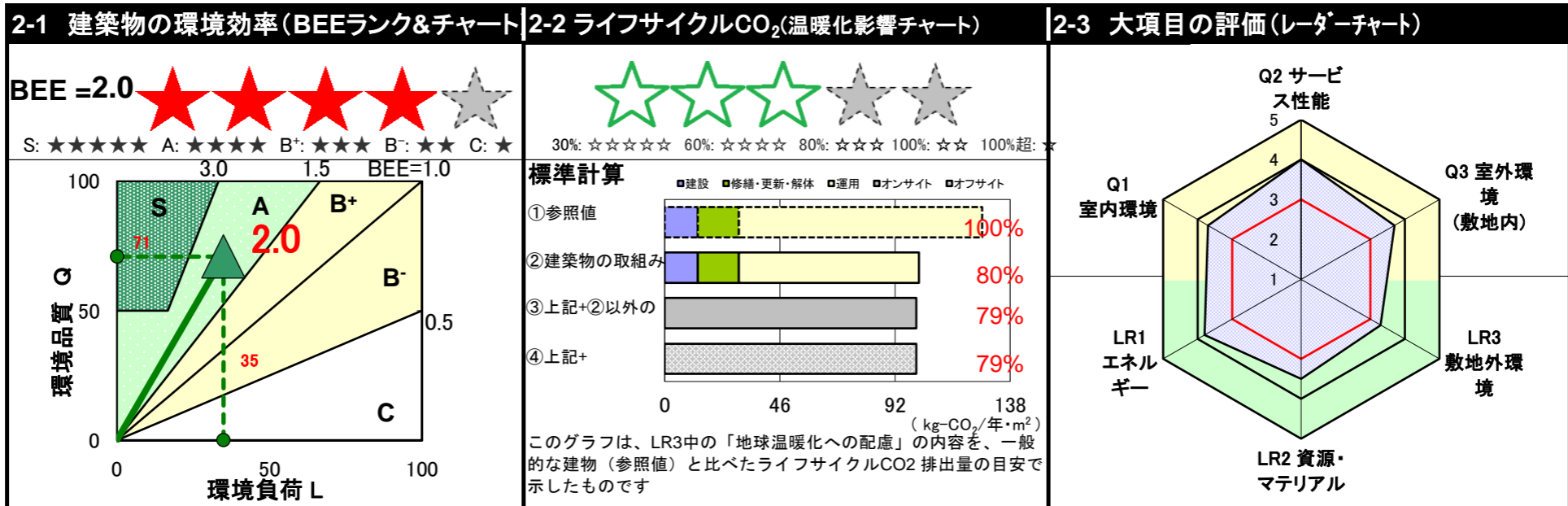


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	あま市新庁舎	階数	地上5階
建設地	愛知県あま市七宝町沖之島深坪1番ほか93筆	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	450人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年2月 予定	評価の実施日	2019年9月27日
敷地面積	26,632 m ²	作成者	井下 仁史
建築面積	3,285 m ²	確認日	2019年9月27日
延床面積	10,495 m ²	確認者	井下 仁史



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>28.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.7</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>玉石積みの外構利用</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		重点項目						評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質															
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル															
騒音レベルが40dB~45dB相当															
3.0 4.0 0.40															
1.2 遮音															
開口部遮音性能がT-2等級以上															
0.4 4.2 0.40															
1 開口部遮音性能															
5.0 0.60															
2 界壁遮音性能															
3.0 0.40															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
3.0 -															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
3.0 -															
1.3 吸音															
天井と外壁に吸音材を使用															
4.0 0.20															
2 温熱環境															
2.1 室温制御															
0.3 3.2 0.35															
1 室温															
0.5 2.2 0.50															
2 外皮性能															
3.0 1.0 0.38															
3 ゾーン別制御性															
3.0 3.0 0.25															
2.2 湿度制御															
3.0 3.0 0.38															
2.3 空調方式															
床吹き出し方式の採用															
3.0 3.0 0.20															
3.0 5.0 0.30															
3 光・視環境															
0.2 3.4 0.25															
3.1 昼光利用															
0.3 3.0 0.30															
1 昼光率															
3.0 3.0 0.60															
2 方位別開口															
-															
3 昼光利用設備															
3.0 3.0 0.40															
3.0 3.0 0.40															
3.2 グレア対策															
0.3 4.0 0.30															
1 昼光制御															
ブラインドと庇によりグレアを制御															
5.0 4.0 1.00															
3.3 照度															
※ 照度が500lx以上1000lx未満															
3.0 4.0 0.15															
3.0 3.0 0.25															
3.4 照明制御															
3.0 3.0 0.25															
4 空気質環境															
0.2 4.6 0.25															
4.1 発生源対策															
0.5 5.0 0.50															
1 化学汚染物質															
仕上はF☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用															
3.0 5.0 1.00															
4.2 換気															
0.3 3.6 0.30															
1 換気量															
建築物衛生法を満たす排気量の1.2倍															
3.0 4.0 0.33															
2 自然換気性能															
自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上															
3.0 4.0 0.33															
3 取り入れ外気への配慮															
3.0 3.0 0.33															
4.3 運用管理															
0.2 5.0 0.20															
1 CO ₂ の監視															
CO ₂ 監視が中央で常時行えるシステムとなっている															
3.0 5.0 0.50															
2 喫煙の制御															
ビル全体の禁煙が確認されている															
3.0 5.0 0.50															
Q2 サービス性能															
-															
0.30															
1 機能性															
0.4 3.9 0.40															
1.1 機能性・使いやすさ															
0.4 3.3 0.40															
1 広さ・収納性															
3.0 3.0 0.33															
2 高度情報通信設備対応															
複数の通信事業者の回線がビル内に引き込まれている															
3.0 4.0 0.33															
3 バリアフリー計画															
3.0 3.0 0.33															
1.2 心理性・快適性															
0.3 4.6 0.30															
1 広さ感・景観 (天井高)															
事務室の天井高2.7m以上															
3.0 4.0 0.33															
2 リフレッシュスペース															
リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上															
3.0 5.0 0.33															
3 内装計画															
庁舎のとしての機能を考慮した内装計画としている															
3.0 5.0 0.33															
1.3 維持管理															
0.3 4.0 0.30															
1 維持管理に配慮した設計															
内装には防汚性の高い素材を使用している															
3.0 4.0 0.50															
2 維持管理用機能の確保															
十分な清掃関連のスペースを計画している															
4.0 0.50															
2 耐用性・信頼性															
0.3 4.7 0.31															
2.1 耐震・免震・制震・制振															
0.4 5.0 0.48															
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															
建築基準法に定められた50%増の耐震性能を有している															
3.0 5.0 0.80															
2 免震・制震・制振性能															
免震装置を採用している															
3.0 5.0 0.20															
2.2 部品・部材の耐用年数															
0.3 4.1 0.33															
1 躯体材料の耐用年数															
躯体の劣化等級3相当															
5.0 0.23															
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
② 外壁仕上げ材の補修必要間隔20~30年程度															
4.0 0.23															
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
② 主要内装仕上げ材の更新必要間隔20年程度															
4.0 0.09															
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															
-															
3.0 0.08															
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															
衛生、消火等の配管にC以上の管材を使用															
4.0 0.15															
6 主要設備機器の更新必要間隔															
② 主要設備機器の更新間隔16~30年程度															
4.0 0.23															
2.4 信頼性															
0.1 5.0 0.19															
1 空調・換気設備															
熱源種の分散化、吊配管の採用															
3.0 5.0 0.20															
2 給排水・衛生設備															
節水型器具を採用し、中水等の利用が可能															
3.0 5.0 0.20															
3 電気設備															
非常用発電、無停電設備を有し、電源設備等は地下空間への設置															
5.0 5.0 0.20															
4 機械・配管支持方法															
耐震クラスS種															
3.0 5.0 0.20															
5 通信・情報設備															
② 地域防災無線、無停電設備を有し、精密機械は地下空間への設置															
3.0 5.0 0.20															

3 対応性・更新性				0.2	3.5	0.29	-	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり		②	階高が3.9m以上 壁長さ比率が0.11	0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	4.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	周辺環境に配慮した外観とし、中高木を多く配置し緑化に努めた	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.0	0.30	-	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	玉石積の外構を利用し、建物の一部には市民活動スペースを設け	-	5.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.6
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.90	3.0	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			地熱利用システムの採用	3.0	4.0	0.20	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.73	3.0	3.7	0.30	-	-	-	3.7
4 効率的運用				0.2	3.5	0.20	-	-	-	3.5
集合住宅以外の評価				1.0	3.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			主要な用途別エネルギー消費のモニタリングを計画している	3.0	4.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.8	0.15	-	-	-	3.8
1.1 節水			自動水栓、人感センサー付き便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.6	0.60	-	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	4.0	0.67	-	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	外構舗装路盤に再生砕石を使用	3.0	3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	3.0	3.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	フリーアクセスフロアを採用し、仕上に自然素材を使用	3.0	5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.7	0.22	-	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着剤、シーリング材、塗料に指定化学物質の含有無し	3.0	4.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.6	0.68	-	-	-	
1			消火剤	-	4.0	0.33	-	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	-	4.0	0.33	-	-	-	
3			冷媒	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO ₂ 排出率 80%	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.7	0.25	-	-	-	
1		独自	雨水流出抑制対策を実施	-	4.0	0.25	-	-	-	
2			汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-	
3		独自	適切な量の駐車、駐輪スペースを確保	-	5.0	0.25	-	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1		独自	騒音	-	3.0	1.00	-	-	-	
2		独自	振動	-	-	-	-	-	-	
3			悪臭	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1			風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	-	
2			砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	-	
3			日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	-	
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	4.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:28.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				2.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	玉石積みの外構利用

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	配慮し緑地を多くとり、上階をセットバックすることで周辺環境に配慮し、多くのエネルギー効率化設備を採用することで地球温暖化にも配慮した庁舎とした
Q1 室内環境	床吹き出し式等の複数の空調システムを合わせることで上下温度差が少ない空調とし、仕上はほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用することで室内環境に配慮した
Q2 サービス性能	天井高が高くリフレッシュスペースも多く取ることでゆとりある空間とし、熱源を分散したり免震構造を採用することで災害対策にも配慮した
Q3 室外環境(敷地内)	緑地やオープンスペースを外部に広く設けることで、周辺のヒートアイランド現象に配慮し、見通しもよい空間とすることで防犯性にも配慮した。
LR1 エネルギー	建物の断熱性を高め、自然通風、自然換気システムや地中熱利用をすることで消費エネルギーの効率化に配慮した
LR2 資源・マテリアル	自動水栓、雨水利用を行うことで水資源保護に配慮し、リサイクル可能な建材を採用することで、非再生資源の消費量削減を行った
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車台数を確保することで周辺の交通環境に配慮し、広い面積の緑地により地球温暖化に配慮した
その他	